



感動は仕事を続けるエネルギーです

長く対人援助の仕事をしていると忘れられない人に出会うことがあります。対人援助の仕事は相手のある仕事です。

だからこちらの思いが伝わらなかったり、予期せぬ理解をされてしまうなどつらい体験をすることがたくさんあります。

そんななかでわたしたちをこの仕事にふみとどめる「良き出会い」もあります。

99のつらさがあっても1の感動があるから対人援助が続けられると言っても過言ではありません。

わたしが「きょうと福祉倶楽部」で仕事を始めた頃こんなお年寄りがありました。

Nさんは脳梗塞による認知症の男性。娘さんご夫婦と奥さんが一緒に住む世帯でした。

介護に自信が持てないご家族は在宅とは名ばかり、月の大半を老人ホームのショートステイに預けていました。

(介護保険では本来は認められない利用の仕方です)

そんな月日を過ごすうちにNさんは施設で大きな声をあげるなど不穏状態が激しくなりました。施設は「もうこれ以上お預かり出来ません」と。

その対応に怒ったご家族がうちの事務所に相談に来られました。ケアプランの作成依頼を承り、わたしが作ったケアプランは大幅なショートステイの削減と、自宅でのご家族の介護負担を減らす在宅スタッフの導入が大きな柱でした。

ケアマネが代わったらこれまでどおりショートが使えると考えていたご家族の不満げな表情をわすれません。

それでも「一度このプランでやりましょう」とお願いし、本当の在宅介護が始まりました。

すると喋れなかったNさん、言葉を取り戻しました！

そしてハーモニカを吹くようになりました。

極めつけは派遣されてきていたヘルパーに奥さんの目の前で「あんだ、畑をあげるからうちに嫁に来て」の一言。奥さんもヘルパーも爆笑。

来年の新年は喪中と考えていたご家族、Nさんが元気になった姿を見て表情も変わり「葬式は無くなったね」と笑顔。

この人は結局胃がんでお亡くなりになりましたが、最期の時間を家で過ごし言葉と家族と共に過ごす時間を取り戻して過ごした末の最期。家族の笑顔と介護をやりきった清々しい表情があのとわたしが仕事を続けるエネルギーになりました。

有限会社 おとくに福祉研究所
きょうと福祉倶楽部

〒617-0824
長岡京市天神4丁目7-12 ハイツ東台101号
TEL 075-958-2560
FAX 075-957-2808
E-mail kyoto-care@club.email.ne.jp